

タカラコロラボ 第18回・第2期第1回TaCoLAB(宝塚市協働のまちづくり推進会議) 議事録	
開催日時	令和8年(2026年)1月6日(火) 15:30~17:30
開催場所	会議室A・B
次 第	1 開会 (1) 辞令交付 (2) 部長あいさつ (3) 会長、会長代理の選出 (4) 市からの諮問(1期から継続) 2 自己紹介 3 議事 (1) 協働のまちづくり推進会議1期について (2) 第2期で取り組む議事について(案) 4 その他 5 閉会
出席委員	田中会長、橋之爪委員、永崎委員、松村委員、龍見委員、大関委員、山本委員、梅田委員
開催形態	公開(傍聴人なし)

1 開会

事務局から、本日の出席者は8名であり、宝塚市協働のまちづくり推進会議規則(以下「規則」という)第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者はいないことを報告した。

(1) 辞令交付

部長より各委員へ辞令を交付した。

(2) 部長あいさつ

市民交流部長より挨拶を行った。

(3) 会長、会長代理の選出

会長の選出方法について、委員より意見があり事務局へ一任することが決まった。事務局により知識経験者である田中委員が会長に選出された。会長代理について、会長により橋之爪委員が指名され、会長代理に選出された。

(4) 市からの諮問(1期から継続)

事務局より第1期の諮問を引き続き取り組んでいただきたい旨説明があった。

2 自己紹介

委員1人ずつ自己紹介を行った。

3 議事

(1) 協働のまちづくり推進会議 1 期について

ア 第 1 期 TaCoLAB 宝塚市協働のまちづくり推進会議まとめの説明

表記について事務局より資料に基づき報告を行い、意見交換を行った。

- (ア) 2 期に調査する事例 3 つについて、別紙資料から項目はわかるが、どこでやっている何なのか情報があれば教えてほしい。
- (イ) (事務局)「ウ 協働の事例集の現状の共有」で、説明させていただければと思う。
- (ウ) 事例集というのは、何年に 1 回更新したり、内容を一新したりするのか。
- (エ) (事務局) 事例集の一新というよりかは、冊子でお配りしている協働の事例集は平成 30 年に作らせていただいたもので、そこから 8 年経過しており、社会状況が色々変わってきている中で、今も継続しているところや新たに生まれた活動を事例として集めて、皆さんの参考になればと思い更新している。何年で更新というわけではない。
- (オ) 終わられたところは、また 1 つ新しい事例を入れるということか。
- (カ) (事務局) 入れるというよりかは、新たな活動でいい事例をかき集めて、更新していく形になる。
数は限定していないため、収集して更新するタイミングを見ながら、常に追記していくことになろうかと思う。
- (キ) (会長) 実際に我々が取材に行き、お話を伺って写真をお借りしたり撮らせていただいたりしている。タイミングよく活動をやっているときに伺うといい写真が撮れるが、興味を持っていただけるような記事を書ければと思っており、全員で分担してやっている。

イ つながりカフェ TaCoLAB の現状共有

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) (委員全員) 意見・質問なし。

ウ 協働の事例集の現状の共有

表記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) 事例集をほかでもよくもらうが、それをどこまで落とし込めるかが地域によってかなり差が出ている。まちづくり協議会代表者交流会などに参加して話をするが、他所がすごくやられているのはよくわかるけれども、人の問題やいろんな問題があつてうちでは難しかったり、逆にうちがいいと思っっているいろいろやっていることを、ほかのまちづくり協議会でできるのかといわれると難しかったりする。(事例が)ほかの地区ではどこまで有効なのか、個人的には少し疑問がある。地域の特性やスタッフそれぞれの能力、人手の問題などいろんな問題があつて難しかったりすることもあるので、もう少し押し並べてもいいのではないかと。押し並べて平均的になって

しまうと、特色がなくなりあまり面白くなくなってしまうと思うが、皆に取り組んでもらおうという思いですのであれば、もう少し取り組みやすいところで、どこから入った方がここ行けますよというようなことがちょっとほしいと感じている。この記事も、よく見たなという印象だった。

- (イ) (会長) 我々は事例集を作成する側なので、記事を作成できたという感覚があるが、新しい視点で意見を言っていただけて助かる。改めて今期一緒に取り組んでいけたらと思う。
- (ウ) この会議が目指すのは、進んだ事例をいろんな地域で進めてもらいたいという思いで事例集ができていっていると思うが、それには結構ハードルが高い。そこに行くまでにうちでは4つ、5つハードルを越えないといけないという印象を受けている。例えば、高校生とまちづくり協議会で一緒にやっている事例にしても、このまちづくり協議会はうまくいっても、ほかのまちづくり協議会はどこの高校とやるのか。同じ高校だと1つの高校に負担が増えしまう。すごくいいけれど、これができる高校との付き合いをまずどうやってするかだったり、先方の学校がまちづくり協議会の数ほどあるとは限らない。では根本的に学校とでないとなると、この事例ではなくて別のルートを探さないといけないため、難しいのではと思う。
- (エ) (会長) 学校といっても、いらっしゃる先生のキャラクターが違ったり、どうやって取り組んだらいいか中々難しい。
- (オ) 中学校があるが、中学生がここまでやるのは難しく、やはり先生の引率が必要であったり、こちらとしても地域のイベントで司会をやらしてもらったりして中学校とも交流をしているが、やはり一定お客さんであり、こちらの負担を丸々預けてしまうところまでは難しい。高校生と中学生ではレベルがかなり違うためなかなか難しい。そういったことも全部ひっくるめて、現在中学生のボランティア部を作って、ここになれる人を育てようという発想で動こうとしているが、ここに持って来ようと思うと何年も先の話である。やはりハードルがだいぶ高い。誰も踏み込めるような第1歩になるようなところがあった方が、取組として働きやすいと思う。あまり高いハードルばかり見せられると、確かにすごくいいが、高嶺の花で無理と思う印象が強い。
- (カ) (会長) 今期は強い味方として、アドバイスをくださったので、一緒に取材していきながら、ハードルが高いのであればハードルを少し下げた表現はどういう表現なのかみんな話し合いながら一緒にやっていたらいいなと思う。
- (キ) 事例集ということになると、もうひとつ前の段階になるのかなと思う。例えば、ほかのまちづくり協議会もご存じだと思うが、市の広報板がなくなる。どうやって伝えるのかもハードルが高くなっている。若い人はスマホがあるが、高齢の方はスマホを持っていないため紙ベースになるが、紙ベ

ースでもなかなか伝わりにくく、統計的にも1%~5%くらいしかチラシの効果がないため、なかなか受け取りづらい。運営委員会等でもいろんなチラシを配るが、どうしても会議のタイミングがあるのと、自治会に渡して自治会内で回覧すると最後の人が見たときには終わっていることがよくあり、どうしようかと悩んでいる。その解決策は、直近で考えないといけない。その取り組みができる団体もあれば、そもそもの取り組みができないところもあり、回っていないから新しいことはしないというスタンスのところもある。

- (ク) (会長) Q&A くらいの相談のレベルもあるということか。
- (ケ) 実際に、こちらが良いと思って一生懸命やっていたことが全然伝わっていないし、響かないことがある。1か月前にチラシを配布しても届かなかったり、届いていても1か月前だと早すぎて忘れている。1週間くらい前に言ってくれたらと言われても回し方が難しい。
- (コ) (会長) 個人的な意思や姿勢がすごく関係していたりするため、そこも大切かと思う。
- (サ) (ケ) 委員とは真逆だが、うちのまちづくり協議会は近所の学校と既に繋がっていて、授業のお手伝いに地域の人が行っている。家庭科の先生が共生ゼミというのを開いており、そのゼミの一環で地域の話をして、授業にお邪魔し、まちづくり協議会の広報誌を配ってゼミ生にまちづくりやこのまちについて話をする。この前は雲雀滝のある雲雀滝山荘で実際に現地を滝を見てお部屋の体験をしながら交流しようということで、年齢当てクイズを行った。高校生の高齢者のイメージが、入れ歯や介護が必要、腰が曲がっているなど、今の90代の人を高齢者だと思っている。そのため、60~80代の人を見て驚いていた。10~20代くらい実際の年齢と計算がずれている。すでに関わっており、事例に出してもいいのではないかと思った。
また、つながりカフェもすごく気になるチラシの一つだが、どれも日程が合わない。孫育てをしており、孫が帰ってくる時間は家にいて、食事も作ろうと思うと、15時に参加するのは難しい。ほかの開催場所もどこにあるのか知らないレベルで、お子様連れ大歓迎と書いてあるが、実際お子様連れは来ているのか気になる。ずっと興味があつて行きたかったがすべて予定があつていけなかったカフェが、まさかここで主催と言われると思っておらず、少しドキッとした。どこかでタイミングが合えば行きたいと思つていたカフェである。
- (シ) この時間は小学生の下校時刻で、この時間は家にいないと子どもが帰って来られない。

- (ス) 時間帯について、午前にしたらいっぱい来るのかと言われたら、そうではないかもしれないし、逆に遅くしたらいっぱい来るのかと言われたら、そうではないかもしれない。
- (セ) 遅い時間になると、ご飯を作らないといけない。
- (ソ) でも、気になってチラシを見ている人はここにいたので、チラシの効果はある。日程が合わなくて行けていない人が何人もいると思う。
- (タ) (会長) 時間と場所は、決めるのが難しく、とても悩みながらエリアで決めたため、そこもまたアドバイス頂けたらと思う。
- (チ) 帰りのことを考えると、駅前だとありがたい。電車を降りてしばらく歩かないといけないとか、電車を降りてバスに乗らないといけないとなると、どんどん自分のテリトリーから外れていくため、右岸と左岸で交互に開催するのはいいと思う。
- (ツ) (会長) 今期も開催するので、ぜひご参加いただきたい。

(2) 第2期で取り組む議事について (案)

- ア 宝塚市協働のまちづくり推進条例の検証について
- イ 協働のマニュアルの検証について
- ウ 事例集の収集・検証及び周知方法の検証について
- エ つながりカフェ TaCoLAB の継続・検証について

標記について事務局より資料に基づき説明を行い、意見交換を行った。

- (ア) まちづくり協議会ポータルサイトが SNS の活用として挙がっているけれども、地域として利用できるのは基本これしかなく、まちづくり協議会のブログというものになるが、構造が古すぎて根本的に作り直してほしい。正直ポータルサイトのトップページのカウントよりもまちづくり協議会の個別ブログのカウントの方が1日で見ると上回っている。ポータルサイトが全然活用されていない。構造が古く、根本的にやり方を考えないと、全然使えない。市広報板はなくなり、ブログを挙げても見るのが大変ではにっちもさっちも行かないので、SNS を全然活用できない。これでまちづくり協議会にやれと言われても肩身がしんどい。
- (イ) (事務局) 今おっしゃっているのは、ブログの体系が古いということか。
- (ウ) システムが古い。例えば画像を入れると、画像フォルダ自体が1回入れると全部後ろに下がっていくため、次同じ画像を探そうとすると1つのフォルダしかなくフォルダ分けができないので昔1回入れた画像をめぐって探さないといけない。それはすごく手間だし、宝塚 NPO センターに対策を聞いたが、もう一回アップロードしたほうが探すのより早いと言われた。それをやっているとだんだん管理側が重たくなるのではないかと思うが、体系が古すぎてそこもわからない。また、ブログの形式で新しい記事を挙げれば挙げるほど下に流れていくため、例えば1週間前や1か月前に情報を挙げてしまうと、

開催する頃には情報をたくさん挙げれば挙げられるほど先に流れてしまって映らなくなる。もう一度掲載を掛けないといけなくなり、また次の情報が下に流れてしまう悪循環が生まれる。また、カレンダー機能が付いているが、ポータルサイトのカレンダーは全く使われておらず、ただのカレンダーになっている。本来であれば、イベントのマーク（日付の色が変わる）を押すとイベントの情報が見られるが、ポータルサイトに限って言えば全く機能していない。イベントカレンダーに出ている情報と投稿しているブログの情報がリンクしていないため、同じものを2つ入れないといけない。それなら改善してもらって、カレンダーは自動的に日付を入れたらそこにデータが入るような仕組みにしておけば、最新のイベント情報をアップできる。右下に新しく入れたブログのエントリーは出るが、その情報は全体のブログのエントリーと重なっている情報だから意味がない。

- (エ) 独自のブログもやっていて、ポータルサイトも使っているということか。
- (オ) ホームページも、ポータルサイトも使っている。
- (カ) まちづくり協議会で独自にやっているものがあり、ポータルサイトは使いにくいのに、なぜポータルサイトも使っているのか。
- (キ) 前の人がやっていたのが一番大きいけど、もともとホームページは持っていなかった。まちづくり協議会の費用負担がないからポータルサイトを使っている。今は独自のブログも使っているが、ブログの方は固定情報を置いている。
- (ク) そっちは、費用負担なしで使っているのか。
- (ケ) 今は無料のものを使っているが、ブログの企業が有料にするとしたら、費用負担が発生する。まちづくり協議会として費用負担を掛けずにやるほうの方法として、ポータルサイトを使用している。
- (コ) ポータルサイトはみんな見ているのか。
- (サ) あまり見られていないのに、ポータルサイトで伝えても仕方がない。
- (シ) 皆独自にやっているため、ここをどうにかしようと思うのが無理かもしれない。
- (ス) うちの団体は、昔からホームページを使って情報を流して更新しているのに加えてインスタグラムを担当者が次々更新している。それで今のところ十分だが、更にXもやれと声がある。
- (セ) ポータルサイトを見ている住民の方はいるのか。
- (ソ) だいぶ最近増えてきた。ここ1年でカウントが200くらい増えた。
- (タ) ポータルサイトを見て来てくれた方がいるということか。
- (チ) イベントの申し込み等は、二次元コードを付けてポータルサイトにアップしておけば、ここ経由で申し込むことができる。
- (ツ) ポータルサイトが使いやすくなってほしいという思いがあるのか。

- (テ) まち協働の事情があり、インスタグラムやXをやろうと提案したことがあるが、できる人が辞めたらだれがするのが課題になる。
- (ト) ポータルサイトも同じではないか。
- (ナ) 同じだが、私の前にやっていた方がおられるので、2人は使えるから1人が辞めても使うことができる。新たにやろうということになると、今できる人がやると言っているが、その人が辞めたら後どうするのか、できないと言われて全然進まない。
- (ニ) 宝塚NPOセンターがポータルサイトの管理をしていて、ポータルサイト自体まちづくり協議会が活用されていると言っているが実際活用されていないのでは？
- (ヌ) 市民協働推進課からは、ポータルサイトを活用してくださいと言われてる。
- (ネ) 市民からもっと使いやすくしてほしいという声はあるのか。
- (ノ) (事務局) まちづくり協議会ポータルサイトの最近の閲覧数を見ると、増えてきており、活用されていると思う。私たちも、まちづくり協議会がどのような活動をしているのか聞かれたら、ポータルサイトの各まちづくり協議会のブログを案内できたりするため、一定の活用を促すことができる。
- (ハ) 効果検証的なやり方は、どのような感じでやっているのか。宝塚市の公式インスタグラムやX、LINEと比べていたりするのか。
- (ヒ) (事務局) そこまでの集計はしていないが、ポータルサイトであれば閲覧数は集計している。
- (フ) SNSと連動できていないため、システムを変えてしまえばできるようになる。
- (ヘ) 自分でやったらいいのではないか。
- (ホ) 自分で作ったものがこと連動するくらいの仕組みがあれば良いなと思う。既存のものや効果が出ているものとあわせられるのがいいと思う。
- (マ) ポータルサイトで挙げたものをそのまま自動でインスタグラムに載せることも、システム的にはできないことはない。広報板をなくしてどうこうするなら、もっとこちらに力入れて、SNSでやると舵を切ってほしい。中途半端に誰も見ていないから紙のアナログやめるなら、ポータルサイトもやめないといけないのではないか。
- (ミ) (マ) 委員のご意見はよくわかった。広報板はなくなる。今のところ希望するまちづくり協議会や自治会が譲り受けることになっている。残すところは残してある。
- (ム) 全部は抱えられない
- (メ) 残すか残さないかは自分の判断である。
- (モ) (会長) 今まで出てきていなかった話題だった。今後の議題に入れてもいいのではないか。

- (ヤ) ぜひこの委員会を通じて、自分が思っていることを単刀直入に言ってもらえたら、みんないい知恵を持っている。
- (ユ) いままで思っていたけどここで言っても仕方がないかと思って言わなかったことだと思う。
- (ヨ) 市も最近フォームを使ってくれるようになった。出欠通知を出せるようになったが、パソコンから入ると受け付けてくれなかった。
- (ラ) 細かいシステムのここをこうしてほしいというよりは、全体的なお金の使い方の意見かと思う。
- (リ) 基本的に広報活動がないとだめだとすごく身に染みていて、地域の企業さんに回ると第一声がまちづくり協議会って何というところから始まる。その説明で30分くらいかかる。
- (ル) 私も(へ)委員と同じように思っていて、まちづくり協議会や自治会をやっていて、最初は私も情報不足で、広報の難しさについていろいろ考えたが、そもそも自分でできることをやらないで行政に頼り切っているのが良くないと思った。税金に頼り切っているので自分たちでお金のことも何も考えない段階では、何も文句言えないと思う。自分でできることはやりつつ、でもここは税金を使うべきではないかというところを考えて行けたらと思う。
- (レ) (会長)新しい議題をいっぱい提案していただきながら、やる必要があることももちろん並行してやっていかなければいけないので、ぜひ頑張っていきたい。

4 その他

- (ア) 宝塚のイベント情報は最近宝塚の公式LINEにたくさん上がるようになった。こちらが見ないようにしたらいいだけだが、通知を入れるようにしていたら沢山入ってくる。日にちの合わないものは消したらいい。情報量がだいぶ増えて、市も努力している。
- (イ) 公式LINEのイベント情報は、広報課が案内しているのか。
- (ウ) (事務局) イベント情報は、市民協働推進課がつながりカフェをイベントとして公式LINEで発信しているため、各課でやっている。
プラットフォームは広報課で作っていて、各課に発信の権限を与えている。交通安全のイベントであれば防犯交通安全課が、つながりカフェであれば市民協働推進課が何月何日何時発信というところで、各部署がそれぞれやっている。
- (エ) どこのまちづくり協議会でもそうだと思うが、まちづくり協議会では大きいのから小さいのまでいろんなイベントをやると思うが、それをどこまでこういう場で話していいのか。うちのまちづくり協議会の話ばかりになってもいいのかとも思っている。
- (オ) どんどんしてください。
- (カ) 行政に頼るのは一切なしで、まずは自分でやってみてこれはお金が掛かると思ったら市や県の補助金を考えないといけない。

- (キ) 自治会やまち協のチラシとかはなぜか市の公式LINEに載ってこないと思うが、やり方がわからない。
- (ク) どの課に言って、どの基準で載せることができるのかわからない。
- (ケ) 小ささは関係なく、広報したい、市民全員に知ってほしいものに関して、公式LINEにどうやって載せたらいいのか。
- (コ) 広報誌に載せるものは広報課に聞いたら決まっていて、そもそも言ったから載せるということはできないと聞いた。
- (サ) 2か月前に情報が全部そろっていないといけなかったと言われた。条件をいっぱい言われた。
- (シ) 前年度に次年度のイベントの日程をだいたい決めておく必要がある。
- (ス) 宝塚市の後援がないとできないのではないか。
- (セ) LINE等も後援がないとできないのか。インスタグラム等のSNSは、気軽にインフルエンサーが勝手にイベント情報流してくれていたりするから、そういう人と繋がったりしてもいいのではと思う。そういう情報共有が全くない。広報の仕方としてはどんどん新しくなっていると思うので、これを活用する方法を考えるのは無駄だと思うから、それ以外で今あるものやなかなかお金使えないところがどうやって今効果のある広報ができるか考えられたらいい。
- (ソ) うちのまちづくり協議会でも1月末のイベントで、まちづくり協議会のメインの活動ではなく補助金なしで、持ち合わせでみんなでやる。いろいろ頑張ってやってはいるが、模索していく。

5 閉会

以上